

第二次世界大戦下のBWSAと亡命SWSI

——国際労働者スポーツ運動の戦後再建に向けて

青沼裕之

一 はじめに

国際労働者スポーツ連合(CSIT)の初めての世界スポーツ大会が二〇〇八年六月二十九日から七月六日にかけてイタリアのリミニで開催され、二五〇〇名以上の競技者を集めた。四年に一度のオリンピックをはじめとして、パラリンピックやワールド・ゲームズなどの世界大会が開催される中で、ついに労働者スポーツの国際競技大会が開催されたのである。

とはいえ、CSITがどんな組織か、ほとんどの日本人は知らないであろうから、CSITのホームページよりその組織特性について紹介しておきたい。「CSITは国際労働運動の理念、すなわちスポーツにおける平等と連帯に基づいた国際的多種目スポーツ組織である。この十年間で、CSITは、三六カ国の同盟と三つの大陸の同盟、そして全体で一二〜一四百万人の個人会員を抱える世界組織へと急速に成長してきた。国際スポーツの世界において、CSITは、すべての人が、その資格、才能、国籍、年齢、性別および社会的境遇に関係なく、スポーツ活動によって利益を得るための支援を続けてきた。CSITは、国際スポーツ連盟総協会(GAISF)、スポーツ科学・体育国

際評議会（ICSSPE）および国際オリンピック委員会（IOC）内のみんなのスポーツを調整するための国際調査検討委員会との良好な協力関係を保っている。」つまり、CSITは国際労働運動と密接なつながりをもつ労働者スポーツの国際組織なのであり、しかも、オリンピック種目以外の国際スポーツ連盟の連合体であるGAISF、スポーツ、体育を含む多様な身体活動領域の研究を奨励し調整する国際連合教育科学文化機関（UNESCO）登録の機関であるICSSPEおよびお馴染みのIOCと協力関係を保っているのである。CSITは、初めての世界スポーツ大会を二〇〇八年に開催し、第二回大会を二〇一〇年にエストニアのタリンで開催した。

しかし、実はCSITは組織名称こそ違いますが戦前にも存在しており、労働者オリンピックアードを過去に三回開催していた。再びCSITのホームページの「歴史」を見ると次のような記述がある。「CSITは、労働者とその家族、とりわけ女性と子どものスポーツ権を獲得するために、一九一三年にベルギーのアントワープで設立された。連盟はヨーロッパにおける二度の世界大戦とその他の主な政治的事件によって大きな影響を被った。第二次世界大戦前にCSITは、労働者オリンピック大会のような非特権階級のための大会を組織した。CSITは一九四六年に再建され、それ以来重要性を増してきている。」と(1)。

これは先行研究で明らかだが、戦前のCSITは社会主義労働者スポーツ・インターナショナル（SWSI）と称していた。つまり、CSITは一九四六年にSWSIを前身として再建された組織なのである。CSITの創設過程、言い換えればSWSIの再建過程を明らかにすることは、実に興味ある研究課題である。

フランス・ニッチュは、SWSIの再建過程、すなわちチェコスロヴァキア解体によるSWSIパリ本部の解散と戦時中のロンドンにおける亡命SWSIの活動について、次のように記している。

一九三八年九月の「ミュンヘン協定」と一九三九年三月の残部チェコスロヴァキアの占領の結果、S A S I〔S W S Iのドイツ語イニシャル表記——筆者註〕はその会員数最大の組織を失っただけでなく、プラハにあったその本部も解散しなければならなかった。S A S Iの指導的代表者たちはイギリスに亡命した。——第二次世界大戦の最初の数年間は、S A S Iの活動は全く停止した。「イギリス労働者スポーツ協会」のイニシアティブで、一九四二年三月七日、ロンドンで、イギリスにいる労働者スポーツ出身の亡命者の会議が開かれ、「準備委員会」をつくった。それは後に「亡命S A S I」とも呼ばれた。ハインリヒ・ゾルクがドイツ労働者スポーツを代表したこの委員会は、全体で一六回の会議を開き、そのさい一九四三年六月二日、労働者スポーツ運動の未来のための覚え書きも公表した（資料…一九四五年一〇月、パリでの労働者スポーツ国際会議に提出された社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会報告）⁽²⁾。

S W S I史に関する先行研究では、このニッチの記述が最後となり、S W S Iの思想と行動の歴史記述は途絶えてしまう。従って先行研究では、第二次世界大戦下のS W S I再建過程については未だに明らかにされていないのである。

それ故、本論文の課題は、S W S Iの指導的代表者たちがイギリスに亡命してからのS W S I（亡命S W S I）の活動を追跡することにある。イギリス労働者スポーツ運動史研究を専門とする筆者が何故亡命S W S I史の研究に着手したかと言え、実は亡命S W S Iの指導的代表者たちを結びつけ、S W S Iの戦後再建の活動にイニシアティブを發揮したのがB W S A指導者たちであったのであり、亡命S W S Iの歴史は戦中期のB W S Aの歴史を記すことの一環でもあるのである。

先ずは、SWSIプラハ本部の解散と指導的代表者たちのイギリス亡命という事態を理解するために、ナチスによるチェコスロヴァキア侵略と解体の経緯を以下に示しておきたい。

一九三八年九月一三日、チェコスロヴァキア国内のドイツ人が大挙して反乱を試みた。この反乱はチェコスロヴァキア政府によつて鎮圧され国情は回復したのであるが、この事変に乗じてヒトラーはチェコスロヴァキアに侵入する動きを加速化する。英仏両政府に緊張が走った。九月一五日、イギリス首相チェンバレンはミュンヘンに飛びヒトラーと会見し、そこでチェンバレンは、ズデーテンのドイツ人居住地域をチェコスロヴァキアより分離してドイツに割譲するが、これ以上のドイツ軍のチェコスロヴァキア侵入を控えることを提案した。九月一八日、フランス首相ダラディエがロンドンを訪れ、切り縮められるチェコスロヴァキアの保証を確認した。チェコスロヴァキア大統領のベネシユは、チェコスロヴァキア政府の意向を無視した英仏両政府の強硬な要請に同意せざるを得なかった。九月二二日、チェンバレンは再びドイツへ飛び、ライン河畔のゴータスベルクでヒトラーと会見した。チェンバレンは英仏両政府の提案をヒトラーに伝え、議論をおこなった。九月二九日、英仏独伊の代表がミュンヘンに集まり会談をもった。ミュンヘン会談では終始ヒトラーが優位な立場にあり、イタリア代表のムッソリーニが公平な仲裁者の役を演じて、翌三〇日四ヶ国代表は、ズデーテン地方をドイツへ割譲する代わりに、チェコスロヴァキアが国家主権と領土保全を認める、というミュンヘン協定を結んだ。

ミュンヘン協定により小さく切り縮められてしまったチェコスロヴァキアは、ナチスのさらなる侵攻により、一九三九年三月一五日に瓦解した。ミュンヘン協定後にチェコスロヴァキア大統領としてベネシユのあとを継いだハーハ(Hacha)は、この国の運命をヒトラーの掌中に委ねた。スロヴァキアが独立国となり、カルパト・ウクライナはハンガリーに奪取され、ボヘミアとモラヴィアがドイツの保護領になった(3)。

以上のような経緯を辿ってチェコスロヴァキアが解体したことで、SWSIプラハ本部は解散し、その指導的代表者たちはイギリスおよびアメリカに亡命したのであった。

二 SWSI準備委員会の設立

BWSAの『年次報告書第一号』（一九四〇年二月）には、早くも次のようにBWSAの任務が記されていた。

ドイツによるヨーロッパ全域への侵略は、国際労働者スポーツ運動の活動をほとんど全面的に途絶えさせた。イギリスは別として、スイスとフィンランドだけが、我々が知るかぎりでも活動し続けており、BWSAは未だにこれらの国の組織と連絡を保っている。いくつかの試みにもかかわらず、我々は、社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの役員らと連絡を取ることは今のところできていない。「略」我々はヨーロッパの同志たちに深い共感を覚える。そして、我々自身のためにと同様に彼らのために、戦後に我々が国際運動を迅速に復活させる目的で、未だに続いているそれら他の国々との協力関係にある組織的中核を維持することが、我々の義務であると感じている⁽⁴⁾。

第二次世界大戦が始まってすぐの段階で、BWSAは「戦後に我々が国際運動を迅速に復活させる」こと、すなわちSWSIの戦後再建を任務と自覚していた。

BWSAは戦中も何とか組織と活動を小規模ながら維持しており、一九四一年後半に『会報第一号』を発行してい

る。この会報には「社会主義労働者スポーツ・インタナショナル」の項目が起こされ、以下のような記述がなされている。

我々の知るかぎりでは、一国を除いてすべてが機能していないし、連盟組織のほとんどがナチズムに踏みにじられ潰された。スイスとスウェーデンは今や存続しているかどうかはつきりしないが、それらと連絡を取ることがもはやできない。BWSAはインタナショナルの以前のメンバーの約一パーセントを代表しており、おそらく唯一持続して活動している団体である。我々は存続にあたって二重の目的を持っている。第一は、SASIを生き残らせることであり、我々は、戦後にその再建を開始する先発であることを希望する⁽⁵⁾。

一年弱前の記録と比べて、情報が錯綜しているし孤立感が深まっているように感じられる。フィンランドの連盟はどうなったのか、スウェーデンの連盟とはこれまで連絡が取れていたのか、定かでない。そういう情報不足の中で、BWSAが唯一存在し続けている連盟組織であると自覚して、SWSI戦後再建をより強く企図している。

それから二ヶ月後に出された『年次報告書第一二号』（一九四一年一二月）には、にもかかわらず希望に満ちた記述が記された。外国から亡命してきたSWSIの指導的代表者との連絡が取れ始めたのである。

（労働組合会議の協力の下に）以前に母国の労働者スポーツ運動と関係のあった亡命者との接触が図られた。執行委員会は、亡命者の同志の一人からの提案にしたがって、（a）戦局が許すかぎり、そのような国際的な接触を維持するために、そして（b）大戦後に社会主義労働者スポーツ・インタナショナルを復活させることに主導

権をとるために、国際委員会を設立することを決定した。提案を実行する第一歩として、新年早々に会議を招集することが決定された(6)。

労働組合会議は通称TUCとして知られるイギリス労働運動の統括組織である。上記の「亡命者の同志の一人」とは誰なのか、については後に明らかとなる。BWSAはTUCと労働党の庇護のもとにある組織であったから、国際的な情報網をもつTUCを通じて亡命者とコンタクトを取ることができたのである。それでも、戦争が始まって二年以上経ってようやく亡命者たちとの関係が結ばれたのであった。

この点は『会報第二号』の記事から補足することができる。

労働組合会議は、祖国でかつて労働者スポーツ運動に関与していた亡命者のリストを我々に提供した。それは、社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの以前の役員、すなわち副会長と彼の同僚の一人である技術・教育委員会のメンバーを含んでいる。ドイツ、チェコ、オーストリア、ノルウェーの友人たちがこちらのリストの中にある(7)。

ここで、亡命SWSIの各国代表者たちを含む多くの亡命者たちがどのようにしてイギリスに渡ってきたのか、W・スケヴネルス著、小山泰蔵訳『国際労働運動の四五年——国際労働組合連盟の歩み——』論争社、一九六一年を手がかりとして説明しておきたい。

ナチスによるベルギーとフランスへの侵略の後、国際労働組合連盟（IFTU）本部をパリからロンドンに移すこ

とが決まり、一九四〇年五月一〇日と六月一七日に本部移転の処置が講ぜられた。そして、書記長スケヴネルスはドイツ、オーストリア、チェコスロヴァキア、ポーランド、スペインおよびベルギーからの政治的亡命者と労働組合亡命者のために、六月の末までに、これら亡命者を再結集させて、イギリスに渡って闘争を続ける者、アメリカに安全に移民することを望む者、フランスに留まる者、自分の祖国に帰る者というように当面の計画を策定して行動に移した(8)。

こうした亡命者の中にSWSI指導的代表者が含まれていたことはほぼ疑いないことであり、後述のSWSI準備委員会で尽力したW・スケヴネルスもイギリスに渡り、IFTUイギリス書記局を構成したのである。

その後、一九四〇年末までには二万人の組合員を擁するノルウェー労働者のグループ、ベルギーおよびフランス労働者のグループがロンドンで中央組織を構成するに至る。さらに、イギリス労働組合会議(TUC)のイニシアティブによって、当時イギリスに住んでいたすべての著名な外国人労働組合主義者の会議が二月一七日にロンドンで開かれた。こうして一九四一年の間に、あらゆる国の労働組合主義者の再結集が完成されたのである(9)。

次いで、亡命労働組合主義者の組織化の先にある国際組織再建の問題についても触れておきたい。SWSI準備委員会の結成と戦後再建の問題に密接に関わるからである。

一九四一年五月八日、五人のIFTU代表と五人の国際産業別書記局(ITS)代表よりなる合同委員会が、議長ウォルター・シトリーンのもとに最初の会議を開き、臨時執行局を設けること、さらにIFTUの規約にある総評議会の代わりに緊急国際労働組合評議会(EITUC)を設立することを決めた。IFTUの戦時会議は九月三〇日にロンドンで開かれ、新しい労働組合インタナショナルを再建する徹底した研究がなされねばならないとする合同委員会の提案のもとで、臨時執行局(議長・ウォルター・シトリーン、副議長・ヨセフ・ボンダス(ベルギー)、ウイリ

アム・グリーン（アメリカ）、コンラッド・ノルダール（ノルウェー）、書記長・ウォルター・スケヴネルス）の設置、並びに臨時執行局メンバーに七名の全国中央組織代表と七名のITS代表を加えて構成されるEITUCの設立が決定された⁽¹⁰⁾。

このように、SWSI準備委員会の設立とSWSI戦後再建の議論に先立って、上部組織であるIFTUのイギリスでの再組織化が進められていたのであった。

既述のBWSA『年次報告書第一二号』に記されていた会議は一九四二年三月七日土曜日に開催された。『年次報告書第一二号』には以下の記述がある。長い記述であるが重要な記録であるので引用する。

もともと成功した会議が三月七日土曜日に開かれた。そこで、BWSAの役員は外国からの仲間、今はわが国への亡命者と出会った。彼らは、社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの活動が戦時期に如何に継続されるのか、そして戦闘が終結したときにインタナショナルの全活動が迅速に再開されることを保証するために如何なる準備計画を作成するのか、について議論した。社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの役員、そしてオーストリア、チェコスロヴァキアおよびドイツの労働者スポーツ運動のかつての役員とメンバーが出席した。数名の関係者から欠席の謝罪と支持の約束があった。〔略〕会議は、各国からの二名の代表を含む委員会を創設することを決定した。オーストリア、チェコおよびドイツの代表が会議で任命され、BWSAは次回の執行委員会会議で候補者を任命するだろう。こちらですでにメンバーを把握している以外の国々にとってすぐにも望まれる好機が訪れたときには、その国々の席も満たされるだろう。／ユリウス・ドイチュ將軍（目下アメリカに常住）を、会長としての職務を果たしてもらうために招待することが合意された。共同書記が任命された——一名

のチェコ人とジョージ・H・エルヴィンBWSA国際書記。その他の役職は後日満たされるだろう。現在の役員と委員会は臨時のものであり、大戦後すぐにも完全な国際会議が招集されるときには、職務を果たすことをやめる。

委員会は差し当たり以下のことに集中するだろう。

- (1) 広報の発行
- (2) 未だに機能しているかもしれない労働者スポーツ組織（例えばスイス、スウェーデンおよびパレスチナ）との連絡の確保
- (3) 新聞、無線および気づきうるかぎり他の手段によって、大戦中に可能なかぎりの宣伝
- (4) 現在イギリスにいる他国からの男女の労働者スポーツマンがBWSAの活動に参加できるようにするための準備
- (5) これまで関係のあった国々だけでなく、USSRをはじめ国際的な労働者スポーツの活動にこれまで参加していなかったような他の国々を含むことによって、なおいっそう包括的なものとするためにも、大戦後に社会主義労働者スポーツ・インタナショナルを迅速に完全なかたちで復活させるための計画の準備⁽¹¹⁾

この会議の内容については、TUC代表のBWSA執行委員T・オブライエンによるTUC総評議会への報告から補足することができる。

社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの第一回国際会議が、一九四二年三月七日土曜日にロンドンのボニ

ントン・ホテルで開催された。H・H・エルヴィン氏が議長を務めた。「略」出席者には以下の人々がいる。

ハインリヒ・ミュラー (Heinrich Mueller) (チェコ) 社会主義スポーツ・インタナショナル副会長／

ルドルフ・シュトルフ (Rudolf Storch) (チェコ) S A S I 教育委員会議長および様々な委員会の委員／

ハインリヒ・ゾルク (Heinrich Sorg) (ドイツ) ドイツ労働者スポーツ協会のかつての指導的役員／

ラヒヤエル・ハンツリヒ (Rachael Hanzlich) (オーストリア) オーストリア労働者スポーツ協会のかつての会

員。欠席の詫び状を送り支持の約束をした人々は以下の通り。

エル・ホマ (Er. Homma) (ズデーテン・チェコ) ／

E・アロン (E. Aron) (チェコ) ／

F・ミクラ (F. Mykura) (チェコ) S A S I 冬季スポーツ部門のかつての議長／

F・クニヒ (F. Kunig) (チェコ) 北および北西ボヘミアのかつての労働者スポーツ組織者／

マックス・グリエンバルト (Max Gruenwald) (オーストリア) オーストリア労働者スポーツ協会のかつての役

員⁽¹²⁾。

会議出席者の中に、かつての S W S I 副会長ハインリヒ・ミュラーと教育委員会議長ルドルフ・シュトルフ、いずれもチェコ人が含まれていたことは重要であった。R・シュトルフについては、彼がかつての S W S I の指導的代表者の一人であり、S W S I 準備委員会 (Provisional Committee of the Socialist Workers' Sports International が英語表記の正式名称となる) の共同書記の一人となったことを念頭におけば、彼がこの会議を提案した既述の「亡命者の同志の一人」であったことは十分に推察できる。会長のユリウス・ドイチュは亡命地のアメリカに居住していたため、

R・シユトルフとジョージ・H・エルヴィン、特にBWSA書記長でもあったジョージ・H・エルヴィンがSWSI準備委員会の実務全般に責任をもって組織運営の要にあった。

三 国際チェスマッチとSWSI準備委員会第二回会議

SWSI準備委員会が設立されて以後は、亡命者たちを組織的に結びつけることが、そしてスポーツ活動を通じてその課題を果たすことが活動の大切な事項となっていく。

最初の試みとして、SWSI亡命者たちとBWSAとの親睦交流チェスマッチが一月に入って、SWSI準備委員会とBWSA執行部によって準備されていく。G・H・エルヴィンはTUCと労働党、そしてIFTUに公式の代表を送るよう求めている⁽¹³⁾。

この国際チェスマッチは一月三日の日曜日に全国労働組合クラブ(ロンドン)において開催された。競技はイギリス代表と各国代表が競い合うという方式で進められた。この催しには多くの亡命者たちが参加しているので、もれなく彼らの氏名と国籍を記すことは意味のあることであろう。

代表選手——シユテフェン・ファツェカス (Stephen Fazekas) (チェコスロヴァキア)、ハインリヒ・フランケル (ドイツ)、ハインリヒ・シユトルスフラー (オーストリア)、ファルカス (Farkas) (チェコスロヴァキア)、フェリックス・フィッシャー (オーストリア)、ゲルハルト・クライスベルク (ドイツ)、パウル・リントナー (ドイツ)、レイフ・E・A・ミケルソン (Leif E. A. Michelson) (ノルウェー)、レオ・ヴェツラー (Leo Wet-

zler) (チェコスロヴァキア)、W・スケヴェネルス (ベルギー)、フリードル・ヒルシュ (オーストリア)、クルト・ベケル (ドイツ)、ヘルベルト・リースケ (ドイツ)、エメリヒ・フォルバト (Emerich Forbath) (チェコスロヴァキア)、マックス・メリオン (オーストリア)、フリードマン (Friedmann) (チェコスロヴァキア)、クラウス・レーマン (ドイツ)、ルドルフ・ビール (Rudolf Biel) (チェコスロヴァキア)、オットー・ドイチュ (オーストリア)、ツエノ・デッサー (オーストリア) / 控え選手・クルト・ハイトラー、エルヴィン・ポラック、ヴァンツル (Wanzl)、ハインツ・シュミット、ヘルマン・シュレイヤー⁽¹⁴⁾。

国際チェスマッチが終了した後の一二月一八日に、SWSI準備委員会共同書記のR・シュトルフがもう一人の共同書記G・H・エルヴィンに宛てて感謝の手紙を送っている。その内容から四点の重要な事柄を知ることができる。

第一は、R・シュトルフが諸外国からの労働者チェス・プレイヤーの住所一覧を同封したこと、第二に、すべての出費がイギリス労働者スポーツ協会よって賄われたこと、第三に、この催しが国際労働者スポーツ運動を復活させるという高貴な目的を支援することに寄与すべきこと、第四に、来年一月初旬に開かれるSASSI委員会〔準備委員会——筆者註〕の次回会議で、R・シュトルフが大陸諸国からの寄付金として約一〇ポンドを手渡すこと、である⁽¹⁵⁾。

R・シュトルフが送付したヨーロッパ各国からのイギリス亡命者の住所一覧は、これもやはりTUCから提供されたものであったと思われる。これ以降も、BWSAが主催する土曜チェストーナメント、労働者ウインブルドン (テニス選手権) などへの亡命者の参加が求められていくが、本稿ではこの点は省略する。

R・シュトルフが一九四三年一月と予告していたSWSI準備委員会会議についてであるが、IFTU書記長の

W・スケヴネルスがG・H・エルヴィンに宛てた手紙から、関連する情報を知ることができる。この手紙はG・H・エルヴィンへの返信であったが、そこに以下の記述があった。

私は臨時の国際委員会の結成についての貴兄の通信を予定通り受け取りました。私は時間の許すかぎり、この委員会のベルギー人メンバーとして奉仕つもりでいると、貴兄にお伝えできることを嬉しく思います⁽¹⁶⁾。

つまり、一九四二年末の時点では、三月七日にSWSI準備委員会の結成会議が開かれて以降会議は開かれておらず、構成員の確保に時間を費やしていたということであろう。既述の通り、SWSI準備委員会の第二回会議は翌年一月に予定されていたのであるが、この会議は翌年一月には開かれなかった。G・H・エルヴィンからW・スケヴネルスに宛てた手紙からその事実がわかる。

我々の国際委員会への奉仕に同意してくださる貴下の手紙に大変感謝申し上げます。次回会議は未だ確定しておりません……⁽¹⁷⁾。

SWSI準備委員会の第二回会議は、その後三月初旬までには開催された。詳しい日付と会場はわからない。G・H・エルヴィンがW・スケヴネルスに宛てた三月七日付の手紙には以下の記述がある。

BWSAはあらゆる初期経費を負担するとともに、最初の数ヶ月を切り抜けられるように委員会に補助金を提供

しています。私たちは通常の方法では加盟費を得ることができませんので、準備委員会の最近の会議において、IFTUが補助金を提供して、BSAに降りかかる財政負担のすべてを回避する準備をしていただけなのかどうか、私が手紙で問い合わせることが提案されました⁽¹⁸⁾。

「準備委員会の最近の会議」とはSWSI準備委員会第二回会議のことである。この会議では、BSAが当座負担せざるを得ない経費をIFTUに肩代わりしてもらえないかという援助依頼の提案が確認されている。

G・H・エルヴィンの依頼に対してW・スケヴネルスは次のように返答した。きわめて友好的な回答であった。

私は、SWSIを存続させ、状況の許すかぎりすべて可能なインタナショナルの活動を継続するという決定に対して、SWSIに祝辞を述べることに何の躊躇いもありません。これは、多年にわたって国際協力とスポーツを含むすべての分野での労働者連帯の精神を維持することに賛同してきた我々自身の政策と完全に一致します。初めての機会として、私は私どもの国際執行部に対して、貴準備委員会が望む方向で活動を展開することができるように、貴準備委員会に補助金を提供する問題を提出するでしょう⁽¹⁹⁾。

つまり、SWSI準備委員会における亡命者たちの活動の資金的援助は、BSA執行部がTUC総評議会ではなくIFTU執行部に直接依頼したということであり、以後もSWSI準備委員会の全般的な活動では、BSA執行部が常にIFTU執行部に援助を求めるという関係が成り立っていく。

G・H・エルヴィンらの援助の依頼はIFTU執行委員会です承された。そのことを伝えるW・スケヴネルスの手

紙が四月九日付でG・H・エルヴィン宛てに送られている。「IFTUの執行委員会は、社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会に対して、一九四三年に五〇ポンドの補助金を助成することを今日決定いたしました⁽²⁰⁾。」

四 オーストリア代表選出をめぐる問題

戦中期のイギリスにおいても、オーストリアからの亡命者たちの間で、SWSI準備委員会の活動から共産主義者を排除しようという行動が起こされていた。シエラ・ハンツリクからR・シュトルフ宛の手紙にその事情が記されている。

労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会の会議において、私は、イギリスにあるオーストリア社会主義者のロンドン・ビューローとオーストリア労働組合員のグループを代表して次のように述べました。すなわち、労働者スポーツ・インタナショナルの規則によれば、それぞれの国の社会主義政党（労働者および社会主義者のインタナショナルに加盟している）と関係のある社会主義者の組織だけが加盟することができます。また現時点でも、オーストリアは正式の社会主義者および労働組合の団体によって正当に認められた人々によってのみ代表されるのです。これらの代表は、ロンドン・ビューローとオーストリア労働組合員のグループによって任命されました。〔略〕現在、オーストリア・センター、青年オーストリア、自由オーストリア運動などの組織のメンバーもしくは役員であると思われるかつてのメンバーを、承認もしくは容認することはできないということです。こ

れらは非政治的組織であるか、またそのように見せかけていますが、とにかく、それらは間違いなく労働者組織でも社会主義組織でもないのです。「略」わが党とわが労働組合グループはまさに今、オーストリア共産主義者との真剣で困難な政治的交渉に取りかかっています。政治的組織との合意を取り付けるそうした試みは、いわゆる非政治的な基準での別の試みによって干渉されてはなりません。それゆえ、我々は、オーストリア・センターからのいわゆる労働者スポーツの人々 (Labour Sports people) の代表を交えた会議が、有益な目的に奉仕しないばかりか設定されるべきでない、という見解をもっています⁽²¹⁾。

以上の引用文からわかるように、ハンツリクは、オーストリア・センター、青年オーストリア、自由オーストリア運動などの組織は、非政治的組織を隠れ蓑とする共産主義者が集まる組織であると見ていたのであり、社会主義政党と関係のある社会主義者の組織だけが加盟することができるというSWSI規則に、それらの組織は反しているという主張だったのである。「オーストリア共産主義者との真剣で困難な政治的交渉」がどのような内容のものであったかはわからないが、とにかく、SWSI準備委員会の活動に共産主義者を関与させないという意志だけははっきりしていた。

しかし、この件でシュトルフは、ハンツリクの意志とは異なる行動を取ったようである。苦情めいた手紙がハンツリクからW・スケヴネルス宛に送られている。

同志シュトルフ (SWSI準備委員会メンバー) がいかに活発であるか、またわがグループの意見表明を待たずに、オーストリア・センターの人々との共同討議に私たちを招待したことに、貴下は疑いなく興味をお持ちでし

よう(22)。

ハンツリクは、この手紙の写しをG・H・エルヴィンにも同封して事情を説明している。

その後、事態はハンツリクの主張の通りには展開しなかった。W・スケヴェネルスは、ハンツリク以外のオーストリア亡命者からの情報も得て、ずっと寛容で連帯を重視する対策を講じようとしていた。W・スケヴェネルスがR・シユトルフに宛てた手紙には次のように記されていた。

オーストリア・スポーツ・セクションについて、私は同志スヴェイタニクスとノヴィと相談し、私たちは原則的に合意に達しました。するべき次の事柄は、一方でノヴィ、スヴェイタニクス、ドイツおよびハンツリクとの会議を、他方で目下自由オーストリア運動に携わるオーストリア・スポーツマンたちとの会議を、オーストリア労働組合グループのスポーツ・セクションへの後者の加盟条件について議論するために召集することです。貴兄がオーストリア・スポーツマンたちと接触し、彼らをこの合同会議に招待するであろうと了解しています。私たちは、明日六月二日水曜日の臨時インタナショナル・スポーツ委員会 (Provisional International Sports' Committee) の会議において、貴兄と私との間で共通の合意として日程を決めることができます(23)。

R・シユトルフの行動はワンマン・プレイではなかったのである。シユトルフの行動の裏ではW・スケヴェネルスが積極的な役割を担っていたのであり、彼はハンツリクの主張とは逆に、自由オーストリア運動に携わるオーストリア・スポーツマンたちをSWSI準備委員会の会議に招待しようと考えており、スヴェイタニクスやノヴィとその点で

合意に達していたのである。

この点で、シュトルフは、アメリカに亡命しているSWSI会長ユリウス・ドイチュの意向も確認したいと考えていた。W・スケヴェネルスの渡米の機会にドイチュに接見することを求めている。

もし貴兄がSASI会長ユリウス・ドイチュに偶然会うことがあれば、また、もし貴兄が我々の準備委員会の設立と我々の将来の計画について彼と議論することができるのであれば、非常に有益です。確かにそれは、SASIに関するかぎりで、わがオーストリアの同志の立場に対する彼の態度を理解するのと同様に、大変興味あることでしょう。私は、同志ジークフリート・ドイチュ〔ユリウス・ドイチュ——筆者註〕と情勢について数回議論しました。ハムステッドで過ごす私の休暇（八月一日～一四日）中に、提案された合同委員会が成功する期待がもてるように、関係するすべての人々と再度議論できることを希望いたします⁽²⁴⁾。

R・シュトルフは、この件ではかなりの慎重さをもって対応しようとしていることがわかる。

W・スケヴェネルスからの返信では、アメリカでドイチュと会う機会はもてないことを伝えるとともに、「より多くのオーストリアのスポーツマンを我々の運動に迎え入れようという我々の試みについては、貴兄がお望みであれば、我々は八月一日のSASIの次回会議で話し合うことができます。」と記している⁽²⁵⁾。

ただし残念ながら、オーストリア・スポーツマンとの合同会議がいつ、どのような形で開かれたのかは、イギリスのBWSA文書にもオランダのIFTU文書にもそれに触れた資料が所蔵されておらず定かでない。

五 青年問題に関する声明

BWSA会長のハーバート・H・エルヴィンとIFTU書記長のW・スケヴネルスが共同して、青年問題に関する声明草案を準備していく。この声明草案は、将来的に世界の労働・社会主義運動の側に青年を組織するために、各国の労働組合と社会主義政党が協力して青年の身体的、精神的小および社会的な発達を位置づける機関を設立して、教育的小およびレクリエーション的活動を重視すべきことを呼びかける内容となっていた。以下に、彼らの共同作業の経過を追ってゆきたい。筆者が収集した資料では、この件についての最初の記述は一九四三年七月一七日付のH・H・エルヴィンからW・スケヴネルス宛の手紙に見られる。

貴兄と私が社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会の次回会議の前に提出する手はずである方針の声明草案を同封します(26)。

H・H・エルヴィンが同封した声明草案の骨子は以下の通りである。

すなわち、「SASI（国際労働者スポーツ運動）準備委員会は、イギリス労働者スポーツ協会（イギリスの労働組合会議と全国労働党の庇護のもとに）と協力して、世界労働・社会主義運動に関わる将来の青年組織を重要視して」きた。よく知られているように、「ヒトラーがドイツで権力を持つ前は、大陸の労働・社会主義運動は強力な労働者スポーツ協会を抱えていた」し、「国際労働組合連盟はそれ自身の青年委員会をもっており、それを通じて連盟

に加盟する様々な国の青年組織に少なからぬ注意を払って」きたが、ナチスの侵略と大戦の勃発によって、ほとんどの労働者スポーツ組織や労働組合、労働者政党は破壊され、青年とのつながりも消失してしまった。また、イギリスでの経験が示すように、「非政治的スポーツ・クラブの環境（従業員の福祉とスポーツの施設を含む）は労働組合から引き離す影響力を持っていた。」それ故、「労働・社会主義運動が自ら労働者スポーツ運動および青年団体の間に親密な関係をつく」らないかぎり、そのことは大戦後も「労働組合や労働党の政治的補充に不利に働かざるをえない。」

したがって、我々は「以下の提案に従って行動してくれるよう希望する。／1、諸兄が将来のために作成する計画においては、その目的として青年の身体的、精神的および社会的な発達を位置づける機関の設立のための準備を確実にすること／2、そのような計画の明確な表現と実施においては、巨大な労働組合および政治的運動の教育的およびレクリエーション的側面が考慮され、実行可能な活動の一部を構成すること／3、(2)で言及された活動は労働組合および政治的運動の統合部分となること。それらの目的は、教育的および身体的な文化の表現のために運動の内部に回路を提供することによって、巨大な団体の将来のメンバーのための補充基地として作用すべきこと(27)。

声明草案が同封されたH・H・エルヴィンの手紙に対して、W・スケヴネルスは以下の点を伝えている。つまり、「週末までにあなたの草案に対して必要な注意を払うでしょうし、次週の初めには必要があれば私の所見を送ります。」と(28)。

ちょうど一週間後に、W・スケヴネルスはH・H・エルヴィン宛に追伸を送り、その中で以下の点を強調したが、スケヴネルスがほぼ全面的にH・H・エルヴィンの声明草案に合意したことが理解できる。

我々のSASSI準備委員会の次回会議に提出される我々の共同声明に向けたあなたの草案を一読して、大変興味

をそられました。「略」それをいつそう注意深く検討し、どう書き直すかと考えたとき、私は現状では、あなたは最善のかたちで実際に問題提起をしたのだと気づきました。私が示唆したいと思うただ一つのことは、表題の追加です。表題は以下のように記されるべきです。／青年運動——国際的な労働組合および政治的労働運動への訴え——(29)

W・スケヴネルスは、H・H・エルヴィンが起草した声明草案をジョージ・H・エルヴィンにも送り、近いうちに他の委員会メンバー宛にこの声明草案を送る手はずを整えるように依頼している。

九月一日水曜日までSWSI準備委員会を延期することを伝える七月三〇日付のあなたの通信を受け取りました。私はこの会議に出席することを堅くお約束します。その間に、あなたは国際的な労働組合および政治的労働運動への我々の訴えに関する声明を受け取るでしょうが、それは、この文書が近いうちに他の委員会メンバーに回覧され得るためです(30)。

しかし、この声明草案はその後書き直されることになる。これはSWSI準備委員会の会議で議論されたことを文面に反映させるためであった。

H・H・エルヴィンはW・スケヴネルスに宛てて、書き直した声明草案を同封している。

書き直した新しい文書とシュトルフの短信を同封いたします。都合がつき次第、その草案についてあなたの意見

が付された返信がなされることを私は心待ちにしております(31)。

書き直した声明草案を読んだW・スケヴネルスは、その文章に非常に不満を感じて、改めて訂正した声明草案をH・H・エルヴィンに返送している。彼が不満に感じた事柄が何なのかはわからない。

率直に申し上げて、この書き直した草案は最初の草案よりは満足していません。これは疑いなく、前回の委員会
が、我々が第一読会でのみ聞いた声明の一部を書き入れることを決定したという事実のためです。暴力まがい
これらの部分を我々の最初の草案に書き入れることによって、声明は幾分バランスが崩れてしまったことは何ら
不思議ではありません。少なくともそれが私に与えた印象です。／それゆえ、私は、ここに言及した急遽書き入
れた草案 (spatchcocking) の悪影響を改善するための誠実な努力をもって、声明を勝手に書き直しました。／
あなたが我々の声明の表現を改善する私の試みを迷惑に思わないと確信しています。／もちろん、もしあなたが
新しい表現を受け入れてくださるのであれば、私が使った英語が必要などころで訂正されるような配慮をしてく
ださることを期待いたします(32)。

W・スケヴネルスが書き直した声明草案に僅かに手を入れて完成された声明文書が、H・H・エルヴィンよりW・
スケヴネルスに送られた(33)。修正された声明文書を受け取ったW・スケヴネルスは、一〇月二六日付の手紙(34)で感
謝を伝えるとともに、それを各組織に送付してもらうために、ジョージ・H・エルヴィンに声明文書の写し二〇部を
同封している(35)。

これに対してジョージ・H・エルヴィンは、W・スケヴネルス宛に以下の文面の手紙を返した。

本委員会の最近の会議で承認され、適切な労働組合、労働党および協同組合の国際組織に送るよう求められた「青年運動」に関する覚書の写しを同封してあります。貴下の組織が早い時期にそれについてご検討いただけるものと私は信じておりますし、三頁に列挙されている四つの特別な提案について、近いうちに貴下のご意見をいただけると嬉しく思いますし、ご賛同いただけることを希望いたします⁽³⁶⁾。

以上が青年運動に関する声明文書の作成準備の過程であった。最初にH・H・エルヴィンが起草した声明草案に書き足し詳述されたものが最終の声明文書となったものと了解できる。そして、文書末尾で提案された四点の最後の事項はH・H・エルヴィンの草案にはなく、新たに書き加えられることとなった。この事項は、イギリス国内での対政府交渉についての誓約内容となっている。

六 特別講座 (Day School) のWSWI再建計画

一九四二年一月七日にフランス領北アフリカに上陸した英米連合軍は、徐々にイタリア本土に迫り、翌年七月九日にはシシリー島に上陸した。イタリア国内では、軍部やファシスト党内部からもムッソリーニ退陣要求が現れ、ついに七月二五日にムッソリーニ政権は倒れた。そして九月三日バドリオ政府は無条件降伏をした。

一方、一九四二年一月から一九四三年一月にかけてのスターリングラード（現ヴォルゴグラード）攻防戦においてドイツ軍はソ連軍によって残滅させられ、同年夏にドイツ軍は総攻撃を仕掛けたが失敗し、以後退勢を挽回することはできなかった。また、一九四三年後半の北大西洋上の戦いでも英米連合軍によってドイツの洋上艦船は戦闘能力を奪われてゆき、同年一月二八日から二月一日までテヘランでローズベルトとチャーチルがスターリンと会談した際、連合軍の北フランス上陸作戦（オーバーロード作戦）が決定されるに至る。

以上のような経過を辿りナチスの勢力は失われていったのであるが、後述の特別講座（Day School）の開催はそうした事態を見極めてのものであったと思われる。

さて、一九四四年三月の時点で、SWSI準備委員会の活動にパレスチナ・スポーツ組織「ハポエル」を引き入れようとする動きが見られた。

共同書記のジョージ・H・エルヴィンがW・スケヴネルスに宛てて、「貴下がわが委員会でロツカー氏とお会いするときには、『ハポエル』パレスチナ代表の名前と住所を聞くために彼と話をする約束を思い出してください。」という確認の手紙⁽³⁷⁾を書いている。SWSI準備委員会の会議ではロツカーに会うことができなかつたために、スケヴネルスはロツカー宛に以下のような手紙を送った。

社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの前回会議では、我々の準備国際委員会におけるパレスチナ・スポーツ組織の代表についての問題が持ち出されました。少し前にパレスチナは、招待を受諾するとともに一人二人の代表を任命するとわが委員会に通知していたと私は理解しております。それ以来、何の情報交換もなされていません。／パレスチナからの推薦を得るにあたり多少なりとも援助をいただけませんでしょうか⁽³⁸⁾。

この時にハポエルと連絡が取れたのかわからないが、ハポエルと連絡を取ることは、一九四四年五月二一日開催予定のSWSI準備委員会代表者会議に向けた準備活動の一環であった。パール・ロツカーがどんな経歴を持った人物かはわからない。

SWSI準備委員会は上述の代表者会議に向けて準備を進める。SWSI準備委員会共同書記のジョージ・H・エルヴィンはTUC書記長のウォルター・シトリーンに宛てて、「私たちは、運動のすべての部門が代表を派遣してくださるかどうが大変心配しておりますので、総評議会がその会議に出席できる一名以上の代表を指名してくださることを希望いたします。」という文面の手紙⁽³⁹⁾を送り、以下のような要項を同封している。

私たちは、大戦後に労働者スポーツ運動を再建するうえで価値のある意見を全般的に交換する好機が到来した、と感じています。従って、私たちは、本委員会の後援で開催される特別講座 (Day School) に貴組織が代表を派遣してくださるようご招待申し上げます。この委員会は、ナチズムによって抑圧されるまでは社会主義労働者スポーツ・インタナショナルに加盟していた主要諸国からのかつての役員の支持を得て運営しております。

詳細は以下の通りです。

日程 一九四四年五月二一日、日曜日

場所 サリー、ギルドフォード、ヘイドン・プレイス、協同組合会館

議長 ハーバート・H・エルヴィン (準備委員会の議長、並びに労働組合会議の前会長)

プログラム

10:45 am.—11:00 am. 映写「一九三七年アントワープ労働者オリンピックアード」

11:00 am.—5:00 pm. 「大戦前の様々な国々の労働者スポーツ運動の構成」／準備委員会によって国際的な労働組合、労働党および協同組合の運動に最近提示された覚書に基づく議論。（ちよつとした紙面の写しが利用できますし、会議書記から受け取ることができます）

W・スケヴェネルズによって始められる議論（国際労働組合連盟の書記長で、準備委員会のメンバー）⁽⁴⁰⁾

TUC総評議会からは四月一二日付の返信が送られる。「貴兄の通信は総評議会の次回会議において相応しい委員会に提出されるでしょう。この後に、私は貴兄に再度手紙をお送りするでしょう⁽⁴¹⁾。」

そして、TUC総評議会ではSWSI準備委員会からの依頼について以下のような決定を下した。

社会主義労働者スポーツ・インタナショナルからの四月八日付の書簡が朗読された。この書簡は、彼らが五月二日に召集する会議に運動のすべての部門が代表を派遣するかどうか心配であることを記している。それ故に、彼らは、一名以上の代表が出席するよう総評議会が指名することを求めている。／以下の点が同意された。イギリス労働者スポーツ協会で総評議会を代表するT・オブライエン氏が会議に出席し、総評議会に報告を提出するよう求められる、と勧告すること⁽⁴²⁾。

TUC総評議会書記補佐は、T・オブライエンに宛てて正式な親書⁽⁴³⁾を送るとともに、ジヨージ・H・エルヴィ

ンに宛てて、「オブライエン氏が五月二〇日にレスターで開催される労働評議会の年次会議に出席せねばならないこと、そして、彼が二一日にギルドフォードに到着できないかもしれないことをお知らせせねばなりません。彼は出席するためにあらゆる努力を尽くすことと私は承知しております。」と伝えている⁽⁴⁴⁾。

この特別講座でどのような内容の議論がおこなわれたかは、資料が欠落していてわからない。なお、要項にある「最近提示された覚書」とは、H・H・エルヴィンとW・スケヴネルスが共同で起草した「青年運動」に関する覚書であった。

その後も、いろんな機会を捉えて、未だに連絡が取れていない労働者スポーツ組織の各国代表と接触しようとしている。

その一つがソ連代表団との接見であった。この件もジョージ・H・エルヴィンとW・スケヴネルスとの手紙のやり取りの中から明らかとなる。ジョージ・H・エルヴィンは、来年二月の世界労働組合会議に向けての話し合いのためにロンドンに滞在している全ソ労働組合中央評議会代表と意見交換をしてみたい、とW・スケヴネルスに持ちかけている⁽⁴⁵⁾。ジョージ・H・エルヴィンの依頼に対してスケヴネルスは、「私は翌週にUSSR代表団と会うことを希望しておりますが、もし好機が訪れるなら、私はUSSRスポーツ組織と我がSWSIとの関係の問題に必ず言及するでしょう。」と告げている⁽⁴⁶⁾。

全ソ労働組合中央評議会代表団が帰国した後、ジョージ・H・エルヴィンとW・スケヴネルスは、来年二月の世界労働組合会議に向けてさらなる情報のやり取りをおこなう。この中でパレスチナ代表の名前が浮上してくる。ジョージ・H・エルヴィンの手紙には以下の件がある。

我々が想定していることは、会議の間に同志シネク (Sinek) と貴下自らが他国の代表、とりわけ大戦前に活発な労働者スポーツ運動を展開していた国々からの代表と話し合いをもたれることですが、もし反応が芳しいのであれば、我々は会議が夕刻に終了した後、一杯のお茶と雑談のために我が委員会を開くべく、彼らを招待する手はずを整えるでしょう(47)。

文中の会議とは世界労働組合会議のことである。ジョージ・H・エルヴィンの依頼に対してスケヴネルスは次のような返答をしている。

私は、世界会議の最初の数日のうちに、国際労働者スポーツ運動の問題に関心を抱くような代表を見いだすべく辺りを見回そうとするでしょう。もし反応が芳しいのであれば、あなたが言うように、私たちはSWSIの委員会のために、彼ら代表の会議を考慮して提案された準備をおこなうでしょう。私が現在わかるかぎりでは、自国のスポーツ運動に関係していたと予想される代表を見いだせそうにありません。いずれにせよ、何かあれば、提案されたような会議の可能性について議論するために、直ちに私はあなたと同志シネクに連絡を取るでしょう(48)。

同志シネクはIFTUのパレスチナ代表であろうと思われる。ジョージ・H・エルヴィンとW・スケヴネルスは世界労働組合会議を労働者スポーツの各国代表との意見交換の場にしようと考えているが、どうもスケヴネルスの摺んでいる情報では、世界労働組合会議に労働者スポーツ関係者は出席しないようである。

一九四四年度のSWSI準備委員会の活動を、BWSAの一九四四年度の『年次報告書第一五号』によって補足しておく。

国際報告…社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会が機能し続けている。今年のもっとも成功した活動は、可能な将来の発展と大戦前の各国における労働者スポーツ運動の構成について議論するために、ギルドフォードで会議を開催したことであった。スイスとパレスチナとの連絡が維持されており、両国は活発に活動し続けている。フランスの解放運動がFSGTとの連絡の再開に導いた。FSGTに対して我々は組織の迅速な復活を祝う。来年中には、かつてSASSIに加盟していたすべての国々との連絡を再開できることが、そしてすべての国の労働者階級の完全な代表を得た新しい労働者スポーツ・インタナショナルを確立する第一歩が踏み出されることが期待される。／H・H・エルヴィン氏とG・H・エルヴィン氏が、今も社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会の議長と共同書記にとどまっている。この準備委員会においてA・E・カスデン氏とG・L・デイコン氏がBWSA代表である。加えて、BWSAの書記長が準備委員会の将来の会議に出席するよう招待された⁽⁴⁹⁾。

この年次報告からはSWSIの再建が近いという期待が伺われる。SWSI再建準備の活動が大詰めに来ているということであろう。文中のギルドフォードの会議とは、一九四四年五月二一日に開催されたSWSI代表者会議の性格を有する「特別講座」であった。この期のBWSA書記長はA・E・リチャーズである。

七 一九四五年一〇月一〇日のSWSIパリ会議

SWSI代表者会議の性格を有する「特別講座」が終了した後、一九四四年六月六日にアイゼンハワー率いる連合軍がノルマンディー上陸作戦を開始し、八月二五日にはパリを解放した。ロンドンより帰国したドゥゴールは臨時政府を樹立した。一九四五年二月四日から一日にかけてクリミア半島のヤルタで米・英・ソ連の三国首脳会談がもたれ、ドイツの戦後処理の大綱、秘密条項としてソ連の対日参戦などが決定された。連合軍によるドイツ諸都市への空襲によりドイツは戦力を失い、同年四月三〇日にヒトラーは自殺してベルリンは占領され、五月七日ドイツは無条件降伏をした。

一九四五年一〇月一〇日SWSI準備委員会はパリ会議を開催した。パリ会議では、一九四二年三月七日のSWSI準備委員会結成以降の活動を総括するとともに、今後のSWSI再建計画について具体的な議論がなされた。SWSIパリ会議は、IFTUの第二回世界労働組合会議に引き続いて開催されたものである。

SWSIパリ会議に先だって、イギリスのTUCの呼びかけによる既述の第一回世界労働組合会議が二月六日から一七日までロンドンのカウンティ・ホールで開催された。この世界会議の目的は、大戦後の世界組織となる世界労働組合連盟(WFTU)を設立する準備を進めることであり、WFTU結成大会に向けて手はずを整えるための臨時大会委員会を組織することが決定された。臨時大会委員会は各国代表とIFTU、国際産業別書記局(ITS)の代表四一名で構成されるものであったが、WFTU結成大会を準備するためのより効率的な委員会として、英、米、仏、ソ連、ラテン・アメリカ各二名と中国、IFTUならびにITSの代表各一名の合計一三名をもって構成される管理

委員会、そして規約を起草するための七人の小委員会を設置することも決定された。管理委員会はWFTUの規約草案を準備することになる。

上述の諸委員会による大会準備を経て、一九四五年九月二五日から一〇月九日にかけて、WFTU規約を採択したのち直ちにWFTU結成大会へと切り替えられることになる第二回世界労働組合会議が、パリのシャイヨー宮殿で開催された。この世界会議には、五九ヶ国から七〇団体を代表する一六二名の代表と五三名のオブザーバーが出席した⁽⁵⁰⁾。

こうして、WFTU結成大会の余韻を持ち込んでSWSIパリ会議は開催されたのである。

それでは、SWSIパリ会議の内容について詳細を示そう。残念ながらBWSA文書にもIFTU文書にもSWSIパリ会議録は含まれていないのでパリ会議での議論、決定等についてはわからないが、一九四五年九月五日に作成されたパリ会議への報告⁽⁵¹⁾があるので、これに基づいて以下に詳細を示すことにする。パリ会議報告の内容は、一言でいえばSWSI準備委員会の大戦中の活動報告であった。

大戦の拡大とともにSWSIは活動を停止し、大多数の加盟国での活動も途絶えたが、イギリス労働者スポーツ協会(BWSA)が主導して、イギリス在住のかつてのSWSIの数名の役員とも協同して、一九四二年三月七日にロンドンに会議を招集し、準備委員会を結成した。準備委員会は、「大戦が終結してSWSIの復活について議論する会議を招集することが実現可能となったとき、直ちに役割を終える」と確認された。準備委員会の会長にはSWSI会長のユリウス・ドイチュ(アメリカ在住で不在)、議長にハーバート・H・エルヴィン(BWSA議長)、共同書記にジョージ・H・エルヴィンとR・シュトルフ(チェコスロヴァキアATUS)がそれぞれ選出され、さらに各国代表二名が加えられることが合意された。

準備委員会結成会議以降に、かつてSWSIに関係したイギリス在住の各国役員との接触が進められた結果、準備委員会は以下の構成となった。

会長 ユリウス・ドイチュ（会議出席は不可）／議長 H・H・エルヴィン／共同書記 ジョージ・H・エルヴィン、R・シュトルフ（Storch）／オーストリア：S・ドイチュ、S・ハンツリク婦人、（補佐 M・フロイドマン、W・ニッセルス）／ベルギー：W・スケヴェネルス／チェコスロヴァキア（DTJ）：P・ヴィボフ（Viboch）／チェコスロヴァキア（ATUS）：H・ミュラー（Miller）（一九四三年八月一八日死去）、F・ミクラ（Mykura）／フランス：R・ルース／ドイツ：H・ゾルク／イギリス（BWSA）：A・E・カスデン、G・L・ディーコン、（補佐 A・E・リチャーズ）／ノルウェー：A・ルンド（Rund）（来客として会議へ出席）／パレスチナ（Hapoel）：オットー・シネク（Otto Sinek）／スイス（SATUS）：G・A・マイアー。

準備委員会はすべてロンドンで開催され、合計で一六回の会議がおこなわれた。

一九四二年七月一五日の会議で、準備委員会がすべての社会主義労働者スポーツマンとの接触を取りつつ、存続すべきことが確認された。

一九四三年六月二日の会議で、ナチスが敗北した後の国際社会を念頭においた「国際労働者スポーツ運動の未来」に関する覚書（論文末の資料Ⅱの付録Ⅰ）が承認された。この覚書では以下のことが明記されている。第一に、大戦終結後の国際的なスポーツ状況の変化を考慮して、国際労働者スポーツ組織が再建され、その構成も変更されること（USSRとアメリカ合衆国の代表の参加を模索すること）、第二に、善意の労働者階級組織であることを執行委員会に納得させるすべての国内センターに会員資格が開かれること、第三に、ただ一つのスポーツ統括組織しかない国では、労働組合や労働者スポーツマンからなる会員のセクションを代表して、そのような組織への加盟が開かれること、

第四に、復活会議に以下の点を報告するために準備委員会が結成されること（以下の点とは、（a）インタナショナルの名称、（b）状況の変化に応じたインタナショナルの構成、（c）専門委員会の設置と活動範囲、（d）事務局の場所、（e）会費の比率、（f）国際労働者オリンピックアードの早期の組織化）、第五に、準備委員会は五名で構成され、同一の国から二名を出さないことに加えて、会長代理と書記代理が置かれること。

一九四三年一月三日の会議に「青年運動」に関するアピール（論文末の資料Ⅰ）が提案された。内容は、青年たちへの励ましとインタナショナルへの協力の要請である。

一九四四年五月二日に「特別講座」(Day School) がサリーのギルドフォードで開催された。

一九四四年一〇月四日の会議で、ナチの圧制からフランスとベルギーが解放されたことを祝い、労働組合、協同組合および労働者スポーツ運動に関わる同志たちに歓迎のあいさつを贈る決議が満場一致で可決された。さらに、ナチの圧制からの早期解放に対してノルウエーの同志たちにあいさつと祝いのことを贈る決議も可決された。

一九四五年一月三十一日の会議で、「青年へのアピール」（論文末の資料Ⅱの付録Ⅱ）が承認された。

第一回世界労働組合会議の際に、準備委員会の議長と共同書記、および同志スケヴネルスも同席して、ソビエトとアメリカの代表団とイギリス、ノルウエー、パレスチナの労働者スポーツ組織の代表との間で会議がもたれたことが、一九四五年三月二八日の会議で報告された。

一九四五年五月三〇日の会議では、同年九月に始まる第二回世界労働組合会議に引き続いてSWSIパリ会議を開催すること、その会議の組織化をフランスFSGTに依頼すること、USSRとアメリカ合衆国の代表も招待することが合意された。

以上の会議報告に続いて、戦争中にも活動を継続していた労働者スポーツ組織の活動（イギリス、パレスチナ、ス

イス、フィンランド) および財政支出について報告された。

報告の結論として以下のことが強調された。「委員会の活動は、この暗い六年間国際労働者スポーツの精神をただ生かしておいただけであつたにしても、十分に価値あるものであつたと思う。委員会は、委員会の設立にイニシアティブを取ってくれたことに対してイギリス労働者スポーツ協会に、そして大変気前の良い財政的その他の援助、並びに多くの我々の同志との接触を保つことのできる資金を、同志スケヴネルスを通じて提供してくれたことに対して国際労働組合連盟に感謝を表明する。」と。

八一九四六年の国際労働者スポーツ委員会 (CSIT) 結成大会へ向けて

SWSIパリ会議の終了後もジョージ・H・エルヴィンはSWSI再建に向けて献身的に活動を続け、アメリカ代表とソ連代表をSWSIの再建活動にコミットさせようとしている。ジョージ・H・エルヴィンはTUC総評議会書記長であり、WFTU議長に選出されたウォルター・シトリーンに宛てて、アメリカの誰に連絡を取るべきかを尋ねている。それに対するW・シトリーンの返答は以下の通りである。

貴兄がアメリカの労働組合についてお気づきのように、アメリカ労働総同盟 (American Federation of Labor) と産業別組織会議 (Congress of Industrial Organizations) との間に存在する差異によつて事情は複雑です。これらの団体どちらかの反感を買うような行動を避けることが常に我々の方針でありましたが、そのような状況下で、労働者スポーツ・インタナショナルにアメリカの協力を獲得する目的で貴兄がなす交渉は、AFLとCIO

の両者とおこなわれるべきである、と私は提案いたします。二つの組織の住所は以下の通りです。／W m・グリ
ーン氏——アメリカ労働総同盟会長、A F Lビルディング、ワシントンD C／フィリップ・マーレイ氏——産業
別組織会議会長、ジャクソン・プレイス七二八、ワシントンD C⁽⁵²⁾

パリ会議でのC I O代表のキネの発言（論文末の資料Ⅱを参照）にもあるように、アメリカには労働者スポーツ組
織がなかったから、S W S I準備委員会はT U Cを通じてアメリカの労働組合統括団体の代表と連絡を取る以外にな
かったのである。

ジョージ・H・エルヴィンはさらにウォルター・シトリーンに手紙を書いて、以下のようなS W S I準備委員会の
方針を伝えている。

私たちは、この組織の活動にアメリカの協力を得ることを非常に切望しています。現在までのところ、彼らは労
働者スポーツ委員会と関係を持っていません。／私は特に彼らとの議論を開始するよう求めて参りましたので、
もし貴下が交渉するのに誰が最良の人物であるかをご提案いただけるとすれば有り難く思います。私は、世界
労働組合連盟への代表の一人であろうと想像いたします。／私たちは開かれた準備委員会に二つの席を用意いた
しました。一つはロシア代表の席であり、もう一つはアメリカ代表の席であります。ロシア人は来月中くらいに
は我々との討議を始めることに同意するでしょうが、できるならば、同時にアメリカ人にも加わってもらいたい
のです⁽⁵³⁾。

連合国の中でも労働者国家であるソ連と巨大な労働組合を有するアメリカの二国の代表に、戦後のSWSI再建に
関与してほしいという願いが込められている。ジョージ・H・エルヴィンはW・シトリーンの勧めにしたがって、A
FL会長のグリーンとCIO会長のマーレイに手紙を書いた。以下の文面はW・シトリーンへの感謝である。

本団体へのアメリカの協力の問題に関する貴下の手紙に大変感謝申し上げます。私はグリーン氏とマーレイ氏に
手紙を書いております(54)。

ここでSWSI準備委員会関連の資料は途絶えている。

九 おわりに

大戦中の亡命SWSIの活動は、BWSAのリーダーシップの下に、ロンドンに亡命していたヨーロッパの労働者
スポーツ組織の指導者たちと協同して結成されたSWSI準備委員会によって担われた。その活動の中心は、第二次
世界大戦終結後に改めてSWSIを再建するための人的結合を維持することにあつた。合計一六回の会議を開催して、
SWSI再建時および事後に必要な報告やアピールを発表するほか、国際チェスマッチなどの競技会を開いて亡
命者たちの親睦も図つた。

SWSI準備委員会の結成とその後の活動は労働組合運動に支えられたものであつた。つまり、準備委員会の結成
と活動に助力したのがSWSIの上部組織、国際労働組合連盟(IFTU)書記長のW・スケヴネルスであり、準備

委員会の活動資金のほとんどがIFTUからの援助であった。また、ロンドンに亡命した労働者スポーツ組織の指導者たちのリストを提供したのは、イギリス労働組合の統括組織である労働組合会議(TUC)であった。さらには、SWSI準備委員会の結成自体がイギリスでのIFTUの再組織化に連動してなされ、大戦後のSWSI再建準備のために世界労働組合会議が利用され、一九四五年一〇月のSWSIパリ会議は第二回世界労働組合会議に接続して開催された。

このように、大戦前にはSWSIはIFTUの下部組織としての性格を有するものであつて、そのこと自体を疑問視することはなかった。未だ、労働者スポーツ組織の社会主義政党や労働組合からの自立の組織原則は問題とはなっていない。しかし、SWSIの再建準備の過程で、準備委員会は戦後の状況を考慮してUSSRとアメリカ合衆国の代表を参加させる努力をするなど、組織構成を変更する意向を示していた。IFTUの戦後再建とも密接に関連したSWSIの戦後再建は、戦前とは違う戦略をもつて進められることになる。

戦後世界の新しい情勢の下で国際労働者スポーツ運動を組織化してゆく過程の究明は、SWSI再建に引き続き研究課題として残されている。

註

(1) CSITのホームページ：<http://www.csit.tv/csitvb1/index.php> (アクセス二〇一〇年一月)を参照。CSITの概要については、以下の上野卓郎氏の論考を参照。「労働者スポーツ世界会議レポート(上) 転換期の国際労働者スポーツ運動」

および「労働者スポーツ世界会議レポート(下) スポーツ・フォア・オールとCSIT」『スポーツのひろば』一九九一年一月号および二月号、「現代の国際労働者スポーツ運動——国際スポーツ運動とCSIT——」一橋大学体育共同研究室編『研究年報』一九九二年。CSITは、一九九一年九月二〇日から二二日までフィンランドのパウラーチ(Paulari)で「労働者スポーツ世界会議」を開催し、この会議で規約改正をおこない、組織名称もComité Sportive Internationale du TravailからConfédération Sportive Internationale du Travailへと変更された。(伊藤高弘『もうひとつの日仏の架け橋——スポーツ交流一九七五〜二〇一〇——』光陽出版社、二〇一〇年、二九〜三〇頁。)

- (2) Franz Nitsch, 'Die Internationalen Arbeitersportbewegungen', In A. Krüger/J. Riordan (Hrsg.), *Der Internationale Arbeitersport*. Köln 1985, S. 204. 上野卓郎編訳『論集 国際労働者スポーツ』民衆社、一九八八年、二七三頁。上野氏はProvisional Committeeを「臨時委員会」と訳しているが、筆者は組織再建のための「準備委員会」と訳出した。プラハ本部が解散されるまでのSWSI史を扱った主な研究に以下のものがある。David Alexander Steinberg, *Sport under Red Flags: The Relations between the Red Sport International and the Socialist Workers' Sport International 1920-1939*, The University of Wisconsin-Madison, Ph. D. (History), 1979. 上野卓郎「一九三〇年代二〇のスポーツインターナショナル関係史」(上)(中)(下)、『一橋大学研究年報『社会学研究』三七(一九九九年三月)、三九(二〇〇一年一月)、四〇(二〇〇二年三月)。

- (3) A・J・P・テイラー著、都築忠七訳『イギリス現代史一九一四—一九四五』みすず書房、九六—一〇八頁を参照。
- (4) Eleventh Annual Report of the Association for the Year Ended 31st December 1940. The Modern Records Centre, University of Warwick Library, England=MRC/MSS.292/808.3/2b
- (5) Bulletin (Second Series) No. 1 (August-October, 1941). MRC/MSS.292/808.3/2b
- (6) Twelfth Annual Report of the Association for the Year Ended 31st December 1941. MRC/MSS.292/808.3/2b
- (7) Bulletin (Second Series) No. 2 (November 1941-January, 1942). MRC/MSS.292/808.3/2b
- (8) W・スケヴェルス著、小山泰蔵訳『国際労働運動の四五年——国際労働組合連盟の歩み——』論争社、一九六一年、二九三

（二九四頁）。

- (9) 同書、二九七～二九八頁。
- (10) 同書、二九九～三〇一頁。
- (11) Bulletin (Second Series) No. 3 (March-May, 1942). MRC/MSS.292/808.3/2b
- (12) Report of T. O'Brien, General Council Representative on the Executive Committee of the British Workers' Sports Association, n.d. MRC/MSS.292/808.3/2b
- (13) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 30th November, 1942. The International Federation of Trade Unions Archives, International Institute of Social History, Amsterdam, Netherlands=IFTU Archives 1919-1953/202 ムムステルダムにある国際社会史研究所に所蔵されている国際労働組合連盟文書（一九一九年～一九五三年）の中に「社会主義労働者スポーツ・インタナショナルおよび加盟諸組織の通信」（分類番号二〇二～二〇五）は所収されている。本研究で利用した国際労働組合連盟文書は、国際社会史研究所のホームページ <http://www.isgnl/index.php> から情報を得て入手した複写資料である。国際社会史研究所に所蔵されているこの国際労働組合連盟文書の内一九三〇～一九四五年の諸資料は、当時IFTU書記長であったW・スケヴェネルスが収集していたものである。IFTU関係の膨大な記録文書が他にもあったようだが、国際労働組合連盟文書の「はしがき」によれば、パリ近郊の小村に隠されたそれら資料はゲシュタポによって発見され、パリ経由でベルリンに移送されてしまい、第二次世界大戦末のベルリンへの空爆によってそれらの資料が保管されていた建物が破壊され、残念ながら記録文書は灰となってしまったと記されている。ところで、国際社会史研究所所蔵の国際労働組合連盟文書が、これまで国際労働者スポーツ運動史研究に利用されてこなかったことはいかなる理由によるのか。このことの解明も一つの研究課題である。なお、亡命SWSIのチェコスロヴァキア関係者の人名表記については、チェコスロヴァキア・スポーツ史研究者の功刀俊雄氏（奈良女子大学）にご教示いただいた。
- (14) International Chess Match Sunday, December 13th. Circular from George H. Elvin to All Members of the British Workers' Sports Association, December 3rd, 1942. IFTU Archives 1919-1953/202

- (59) Letter from R. Storch to George H. Elvin, 18th December, 1942. IFTU Archives 1919-1953/202
- (91) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 23rd December, 1942. IFTU Archives 1919-1953/202
- (71) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 8th January, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (81) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 7th March, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (61) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 15th March, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (82) Letter from W. Schevenels to G. H. Elvin, 9th April, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (72) Letter from Sh. Hanzlik to R. Storch, 4th March, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (82) Brief von Shella Hanzlik an Walter Schevenels, 5 März 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to R. Storch, 1st June, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (72) Letter from R. Storch to W. Schevenels, 27th July, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to R. Storch, 28th July, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from Herbert H. Elvin to Walker Schevenels, 17th July, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (82) Draft of the Statement of the Provisional Committee of SASI. The Youth Movement: Appeal to the International Trade Union and Political Labour Movement. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to Herbert H. Elvin, 20th July, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to Herbert H. Elvin, 27th July, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 4th August, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (73) Letter from Herbert H. Elvin to W. Schevenels, 6th October, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 18th October, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (83) Letter from Herbert H. Elvin to Walter Schevenels, 23rd October, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (73) Letter from W. Schevenels to Herbert H. Elvin, 26th October, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203

- (55) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 27th October, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203 M・スタヴネルスからシモーシ・H・エルヴィンに送られた声明文書は、一九四三年一〇月二七日より社を入られたり発行された。Socialist Workers' Sports International Provisional Committee, The Youth Movement. Appeal to the International Trade Union and Political Labour Movements. Report by Comrades H. H. Elvin and W. Schevenels, 27th October 1943. IFTU Archives 1919-1953/203 論文米の資料一より全文語出より掲載。
- (56) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 20th November, 1943. IFTU Archives 1919-1953/203
- (57) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, March, 1944. IFTU Archives 1919-1953/204
- (58) Letter from W. Schevenels to Berl Locker, 15th March, 1944. IFTU Archives 1919-1953/204
- (59) Letter from George H. Elvin to Walter Citrine, 8th April 1944. MSS.292/808.3/2b
- (60) A Letter from George H. Elvin and R. Storch to the Trades Union Congress General Council, 4th April 1944. MSS. 292/808.3/2b
- (61) Letter from Assistant Secretary of the Trades Union Congress General Council to George H. Elvin, 12th April 1944. MSS. 292/808.3/2b
- (62) Minutes of Meeting of the Finance and General Purposes Committee of the Trades Union Congress General Council, 24th April 1944. MSS.292/808.3/2b
- (63) Letter from Assistant Secretary of the Trades Union Congress General Council to T. O'Brien, 27th April 1944. MSS. 292/808.3/2b
- (64) Letter from Assistant Secretary of the Trades Union Congress General Council to G. H. Elvin, 27th April 1944. MSS. 292/808.3/2b
- (65) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 20th October, 1944. IFTU Archives 1919-1953/204
- (66) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 27th October, 1944. IFTU Archives 1919-1953/204

- (47) Letter from George H. Elvin to W. Schevenels, 28th December, 1944. IFTU Archives 1919-1953/204
- (48) Letter from W. Schevenels to George H. Elvin, 2nd January, 1945. IFTU Archives 1919-1953/205
- (49) Bulletin (Second Series) No.9 (January-March 1945). Fifteenth Annual Report for the Year Ended 31st December 1944. MRC/MSS.292/808.3/2b
- (50) W・スケヴェネルス、前掲書、三四〇〜三五五頁。法政大学大原社会問題研究所編『太平洋戦争下の労働運動 日本労働年鑑／特集版』労働旬報社、一九六五年、二五六〜二六七頁。
- (51) Socialist workers' Sports International Provisional Committee. Report to Conference: Paris, October 10th, 1945. National Museum of Labour History/372.7 論文末の資料Hより全文訳出して掲載。
- (52) Letter from General Secretary of the Trades Union Congress General Council to George H. Elvin, 6th November, 1945. MSS.292/807.12/5
- (53) Letter from George H. Elvin to Walter Citrine, 4th December, 1945. MSS.292/807.12/5
- (54) Letter from George H. Elvin to Walter Citrine, 14th December, 1945. MSS.292/807.12/5

【資料I】

社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会

青年運動 国際的な労働組合および政治的労働運動へのアピール

——同志H・H・エルヴェインおよびW・スケヴェネルスによる報告

イギリス労働者スポーツ協会（イギリスの労働組合会議と労働党の庇護のもとにある）が関係しているS A S Iの準備委員会（国際労働者スポーツ連盟）は、国際的な労働組合および政治的労働運動と関係のある未来の青年組織について配慮してきた。

よく知られているように、ドイツにおいてヒトラーが権力の座に着く前は、大陸の労働運動は強力な全国的な労働者スポーツ協会を有していた。ナチスがおこなった最初の事柄の一つがドイツにおける労働者スポーツ運動を破壊することであり、すぐに労働組合運動と政治的運動それ自体の破壊が続いた。同じ手順がドイツに占領された各々の国で繰り返された。

ヨーロッパで途絶えていたこれらの国内的活動を労働者スポーツ・インタナショナルもまた戦時期の早いうちから機能させることに失敗した。

しかし、大ブリテンにおいて接触することのできたS A S Iのそれらのメンバーの求めに応じて、B W S Aは、交戦状態が消滅するやいなやS A S Iが完全な活動を再開できる準備を整えるために、かつてS A S Iに加盟していた国内労働者スポーツ組織の活用できる代表よりなる準備委員会の創設に向けて責任を請け負った。目下、以下の国々がそうした代表者を出している。すなわち、オーストリア、ベルギー、チェコスロヴァキア(D T J - A T U S)、ドイツ、大ブリテンおよびパレスチナ。ノルウェーはS A S Iへの正式な加盟の資格がないが、その代表は準備委員会と関係している。この新しい準備団体に対するスイスの好意も保証される。

最後に、国際労働組合連盟もまた準備委員会に協力している。国際労働組合連盟はかつて、その青年・教育委員会を通じて、スポーツを含めて青年に関わる国内のおよび国際的活動の発展と調整に大いに貢献していたし、常にS A S Iと友好的な関係にあった。

将来を考慮した活動

大戦後は、一九一八年の終わり以上に、青年の側では生活において自己の要求を行使したいという大きな衝動が生まれ、その結果様々な国々で青年運動において少なからぬ発展が見られるだろう。勤労青年を含んだそのような運動が、労働者の理想の実現にとって貴重なものとなるか危険なものとなるか、それらの国々では労働組合と社会主義組織にかかっている。大戦前の大陸の青年運動は、ある程度は国内労働運動の欠くことのできない部分であるか、それらによって後援されていた。それらの教育的活動は知的発達だけでなく、スポーツを通じて身体的発達をも包含した。同時に、青年運動はより大きな運動のための素晴らしい補充基地

を提供した。なぜなら若者は、労働組合と社会主義組織において彼らの活力や精神的発達のあらゆる回路を見出しうるような雰囲気の中で、そしてそうした知識を持って成長したのである。

S A S I 準備委員会は、大ブリテンにおいて代表する追放された労働組合と社会主義組織はもちろんのこと、イギリスの労働組合と労働運動が、彼らの戦後計画を準備する一方で、これらの予想される青年問題を心に留めるべきであり、彼らの満足ゆく結論に関心を持つべきである、と強く感じている。我々の敵は青年を獲得する重要性に気づいており、概して、彼らの手段は屋内娯楽、野外スポーツおよび全般的環境の準備である。我々は、青年の心と想像力を掴みうることに主ではなくとも大きく依存している我々の未来に、同じように関心を払うべきである。

このことの説明として、大ブリテンでは青年の発達の重要性が最後にはイギリス政府によって認識された、と人は言うかもしれない。青年組織は国中に設立されており、地方連盟を設立し、そして一定の例外はあるが、政府の補助金によって助成を受けている。例外は労働組合を含む政治的団体である。このこと自体は、かつての特定のブルジョア団体に対してよりも、イギリスの労働組合と労働運動にとってより大きな危険となろう。というのは、雇用者の福祉とスポーツの施設を含むいわゆる非政治的スポーツ・クラブの雰囲気は労働組合活動家と社会主義者の子弟に我々の理想とは反対の影響を与えていた、ということを経験が示しているからである。

以上に見たように、そのような行為はかなりの程度まで、大陸では労働者スポーツと青年の組織との緊密な結び付きを維持している主要な組織によって効果的に中和された。労働党が支配しているか十分な影響力を持っているそれらの国々では、労働者スポーツ組織が関係する国家から補助金を受け取っていたことも話題にされうる。

もちろん S A S I はこれらの進展に役割を果たした。労働組合や社会主義センターと密接に結び付いた加盟する全国部門を通じて、S A S I はその運動の理想の実現に向けて継続的に働き、科学的原理に基づく身体的および知的発達の重要性を強調した。こうして彼らは、立派な市民に向けての身体的および精神的教育を完了したいという人間としての基本的権利を勤労青年が十分に行使することを、社会が拒むことによって勤労青年にもたらした損害を埋めることに大きく貢献した。加えて、身体発達とスポーツに関する S A S I の特別な概念と理想が絶えず前面に持ち出された。

当然にも未来は不確定である。しかし、以下の三点は我々にとって明白である。

1 すでに述べたように、青年の発達にいつそう注意を払おうというすべての国々での一般的要求は、大戦後はかつて以上に強く生じるはずである。この要求はすべての労働組合および社会主義運動によって刺激されねばならない。

2 IFTUの全国センターは目下その計画を準備している。その計画によって、国内的にも国際的にも、労働者の教育的、文化的、身体的発達を彼らの国内のおよび国際的活動の必須の部分とする準備がなされるだろう。かつては様々な独立した教育ないしスポーツの組織が部分的にこの活動をおこなっていた。しかし、将来これらの活動がより以上に調整され、この結果を成し遂げる合理的な方法は、労働組合と社会主義組織の共同の庇護のもとにこれらの活動の全体をまとめることになる、と我々は確信している。

3 大ブリテンには数多くの亡命政府が存在しているが、上記の目的の実現に向けてこれら様々な国々で現在政府の行動に影響を及ぼすために、その利点が活用されるだろう。我々の見解では、国際分野でIFTUが、大ブリテンでイギリス組織が、そして各々の亡命政府のもとでその他の亡命組織が、望まれる未来の青年および青春期の団体を考慮して、準備の、そして後には運営の活動に正当に参加することを要求するだろう。

これと関連して、関係する政府は、その国内の労働組合と労働運動の教育的およびレクリエーション活動が財政的な国家支援を無条件に受けることを了解させられるだろう。

諸兄が我々同様にこの点の重要性を了解されるだろうと私たちは確信している。それゆえに、我々は自信を持って諸兄に話を持ちかけるのだが、諸兄は以下の提案について検討してくれるだろうし、我々は行動を期待している。

A 諸兄が未来のために構想する計画においては、その目的に青年の発達、身体的、精神的、社会的な発達を位置づけるような機関を運動の内部に設置するための準備がなされることを理解するだろう。別の言い方をすれば、我々の目的は、我々が求める新経済・社会秩序の基礎である社会主義の諸原則において青年を訓練することである。

B そのような機構の系統的組織化と実施において、より大きな労働組合と政治運動の教育的およびレクリエーション的側面が考慮されるだろうし、効果的な活動の一部となる。

C Bで言及された活動は労働組合と政治運動の必須の部分となる。その目的は、運動の内部に教育的文化と身体文化の表現のための回路を提供することによって、より大きな団体の未来の会員のための補充基地として機能することである。

D 我が国で亡命政府との迅速な接触がなされるだろうし（決定されるように）、IFTUを通じても各々の国内センターを通じても）、イギリスの労働組合会議を通じて、身体的および文化的発達にも関わる青年運動の承認に向けて、すなわち、これらの目的を満たすそうした全国団体に補助金を提供するようイギリス政府と交渉するだろう。

我々は、これらの提案を熟慮した後に、諸兄がそのために最善を尽くす意志があることを耳にして嬉しく思う。

一九四三年一〇月二七日

A・K

【資料Ⅱ】

社会主義労働者スポーツ・インタナショナル準備委員会

一九四五年一〇月一〇日パリ会議への報告

一 第二次世界大戦の勃発は、社会主義労働者スポーツ・インタナショナル〔SASSIとも表記される——訳者註〕の活動の休止へと追い込み、戦争が拡大するに及んでインタナショナルによる活動は完全に停止するとともに、大多数の加盟国での活動は途絶えた。大戦の勃発前でさえ、インタナショナルはナチズムの広がりの中でその支柱を失っていた。例えばドイツとオーストリアでは、ヒトラー権力の最初の行動の一つが、インタナショナルにおいて最強の二つであった労働者スポーツ組織を抑圧することになった。

二 準備委員会の結成…一九四二年にイギリス労働者スポーツ協会は、かつて自国の労働者スポーツ組織と結びついていて、そし

てその何人かは社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの役員であった幾人もの同志が、一時的にイギリスに在住していることを知った。協会は彼らとの公式のつながりを保つことを決定し、同時に国際労働組合連盟から、かつて労働者スポーツ運動と結びついていてイギリスに一時滞在している人物のリストを受け取った。その後、一九四二年三月七日にロンドンで会議が召集され、そこにはH・ミユラー（前社会主義労働者スポーツ・インタナショナル副会長）、イギリス代表団、並びにオーストリア、チェコスロヴァキア（DTJとATUS）、ドイツのかつての労働者スポーツ組織の代表が出席した。

三 会議は以下のことに合意した。すなわち、社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの機構が実行できるかぎり維持されるべきこと、準備委員会がこの目的のために結成されるべきこと、現存の、あるいはかつての労働者スポーツ組織の代表者たちがこの委員会に奉仕するよう招かれること、そして大戦が終結して社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの復活について議論する会議を招集することが実現可能となったとき、この委員会は直ちにその役割を終えること、であった。

四 同志ユリウス・ドイチュ（社会主義労働者スポーツ・インタナショナル会長）が招待され、彼はアメリカ合衆国にいて不在で会議には出席できないけれども、準備委員会の会長として奉仕することに同意した。同志H・H・エルヴィン（イギリス労働者スポーツ協会議長）が議長に選出され、ジョージ・H・エルヴィン（イギリス労働者スポーツ協会）とR・シュトルフ（チェコスロヴァキアATUS）が共同書記に選出された。さらに、委員会を代表する基準が、現在活動中の、あるいは過去にそうであった労働者スポーツ組織からの二人の代表者であるべきことが合意された。

五 委員会の構成…委員会は最初第一回会議に出席した組織および国の代表者から構成されたが、その後別の接触もなされ、準備委員会の最終的な構成は以下の通りとなった。

会長 ユリウス・ドイチュ（会議に出席することはできない）

議長 H・H・エルヴィン

共同書記 ジョージ・H・エルヴィン／R・シュトルフ (Storch)
オーストリア S・ドイチュ／S・ハンツリク婦人／(補佐 M・フロイドマン／W・ニッセルス)
ベルギー W・スケヴェルス
チェコスロヴァキア (DTJ) P・ヴィボフ (Viboch)
チェコスロヴァキア (ATUS) H・ミュラー (Müller) (一九四三年八月一八日死去)／F・ミクラ (Mykura)
フランス R・ルース
ドイツ H・ゾルク
イギリス (BWSA) A・E・カスデン／G・L・デーコン／(補佐 A・E・リチャーズ)
xノルウェー A・ルンド (Rund)
パレスチナ (Hapoel) オットー・シネク (Otto Sinek)
スイス (SATUS) G・A・マイアー
xは来客としてだけ会議に出席した。

六 委員会の会議…委員会はロンドンで開催され、一六回の会議をおこなった。主な議題は以下の通り。

七 将来の発展…以下の決議が、一九四二年七月一五日の会議において満場一致で合意された。

準備委員会の主要目的(つまり社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの機構の維持)を心に留めるかぎり、委員会は、時代状況の変化と大戦後の可能な発展を考慮して、すべての社会主義労働者スポーツマンと接触すべきであると考ええる。

八 労働者スポーツ運動の未来…委員会によって承認された一九四三年六月二日付の覚書からの抜粋。

労働者スポーツ運動がヒトラーおよびナチスと同盟を組んだ犯罪者と裏切り者の敗北の後に再生されるだろう、ということ

は疑いない。この再生がどのような形を取りうるかは誰も語ることができない。しかし、二つの事柄は確実である。

(一) 多くの大陸諸国では、その種の重要な自治組織が存在したが、それは民主的な反ファシズム原理に基づいていた。ファシズムに対するその最良のメンバーの闘いと彼らが払った大きな犠牲は、ナチズムの敗北後に、勝利を得た反ファシズム政権内にこれらの組織の場を与える。

(二) 大陸の青年たちの身体的道徳的な再教育において、自由な大衆的スポーツ組織は大きな役割を演じるだろう。我々は、S A S I 準備委員会の活動と結びついた我々の職務を以下の点から引き出すべきである。

(a) かつての労働者スポーツ運動の展開

(b) 労働者スポーツマン大衆がファシズムに対する共通の闘いをおこなっているという事実

(c) 我々の前にある重大な仕事に関する知識

これに対して、我々は「亡命者心性」(refugee mentality) に発する狭い考えにとらわれず、そして狭量なセクト主義と排他的な利害から自由になるべきである。

委員会による具体的な提案が付録 I として添えられている。

九 青年運動…一九四三年一月三日付のアピールは、青年が大戦後の労働者階級運動に関する理想を実現するうえで果たすべき

役割に配慮する労働組合および政治的労働者の国際的運動(各々、国際労働組合連盟(I F T U)と社会主義労働者インタナショナル(L S I)によって代表される)に対して出された。アピールは特に以下のように提案している。

(a) 将来のために作成される計画では、労働組合と労働者の運動の内部で運営機構の設立に向けた準備がなされるべきである。その機構はその目的として青年の発達を、すなわち身体的、道徳的、社会的な発達を位置づけるだろう。言い換えれば、我々の目的は、我々が求める新しい経済的社会的秩序の基礎である社会主義の原則において、青年を訓練することである。

(b) そのような計画を立案し実行するに当たり、より大きな労働組合および政治的運動の教育的およびレクリエーション

的な側面が考慮されるだろうし、事業活動の一部を担うだろう。

(c) (b) で言及した活動は労働組合および政治的運動の不可欠な部分となる。その目的は、運動内部に教育的かつ身体的な文化の表現のための回路を設けることによって、より大きな団体の将来の会員補充の場として作用することである。

一〇 専門的活動…現在の境遇では専門的活動は実行できないことが一九四四年三月一日に合意された。

一一 特別講座 (Day School) : 準備委員会に所属したグループのメンバーとイギリスの労働組合、労働党および協同組合の運動の代表は、一九四四年五月二日にサリーのギルドフォードで開かれた特別講座に招待された。満足ゆく出席者数とともに、以下の点で最高に有益な意見交換がなされた。すなわち、(1) 各国の労働者スポーツ協会の構成、(2) 九節で言及された青年に関する覚書。さらに、ノルウェーのナチ占領軍との戦いでスポーツ運動によって演じられた役割について、もつとも感動的な報告が同志ルンドによってなされた。

一二 フランスとベルギーの解放…以下の決議は、一九四四年一〇月四日に満場一致で合意され、新聞に発表され、妥当なフランスとベルギーの連絡先に送られた。

S A S I (社会主義労働者スポーツ・インタナショナル) 準備委員会は、ナチの圧制からのフランスとベルギーの解放を祝い、労働組合、協同組合および労働者スポーツ運動に関わるわが同志たちに歓迎のあいさつを贈り、そして道義への不動の忠誠と迫害者に対する勇敢な行動に対して、並びに一九四〇年から一九四四年に渡る暗黒の年月において民衆の道徳を維持するうえでのその持続的で首尾一貫した努力に対して、様々な地下活動に身を投じたわが同志たちに祝いのことばを伝える。委員会はまた、統一自由運動 (United Free Movements) がまもなく過去数年間の退行から立ち直り、再生の仕事ばかりでなく、自由、正義、平等という不変の原理に立脚した社会の新秩序を建設する仕事へと急速に前進するだろう、という希望を表明する。さらに委員会は、我々自身の国際労働者スポーツ運動を復活させるとともに、解放された諸国ばかりでなくナチのくびき

からの早期の解放を切に願っている国々のすべての同志たちを、スポーツ・フィールドで再会させることができる日（信じるその日は近い）を楽しみにして待つ。

一三 ノルウェー…委員会は一九四四年一〇月四日に同志ルンドから、ノルウェーのスポーツ組織に関する覚書（一段落にわたって言及された報告を同封している）並びにノルウェー政府によって発行されたノルウェーのスポーツ戦線の歴史を伝える覚書を受け取った。以下の決議が可決された。

S A S I（社会主義労働者スポーツ・インタナショナル）準備委員会は、ナチによるノルウェー占領期のノルウェー・スポーツ運動の歴史を記した報告とともに、ノルウェーのスポーツ組織について準備委員会に提出された覚書を注意深く検討した。準備委員会は、ノルウェーの同志たちが耐えている苦悩への深い共感を記録に留めるよう望むとともに、準備委員会が首尾一貫して維持してきた原則に対して、並びに猛烈な困難に対する英雄的な戦いに対して、彼らが示したまったく立派な立場に祝福のこぼを表明する。準備委員会はさらに、たとえ彼らの将来のスポーツ運動がどのような形態をとろうとも、彼らがその将来の発展においてS A S Iと提携し、S A S Iを援助し、将来の国際スポーツ・イベントにもう一度参加できるように準備がなされるだろう、という希望を表明する。

もう一度準備委員会は、ナチの圧制からの彼らの早期解放に対してノルウェーの同志たちにあいさつと祝いのこぼを贈る。

一四 青年へのアピール…青年への特別アピールが一九四五年一月三十一日に承認された。写しが付録Ⅱとして添付される。

一五 世界労働組合会議…ソビエトとアメリカの代表団との接触を確実にするために、ロンドンでの世界労働組合会議が利用された。以下は一九四五年三月二八日の委員会に提出された報告の記録である。

ソビエトとアメリカの代表とイギリス、ノルウェー、パレスチナの労働者スポーツ組織の代表との間で会議がもたれた。加えて、委員会の議長と共同書記が、会議の手はずを整えた同志スケヴェルスとともに出席した。会議は調査的なもので、一般

的な意見交換がなされ、同志M・I・クズネツォフが、すべてではないけれど大部分は労働組合を通じて組織されたUSSRのスポーツの強さと組織に関する詳細を述べた。彼は、スポーツ水準が十分に高ければ、ソビエトのスポーツ組織は他国の労働者よりはブルジョア組織と競い合うことを好んだ、と述べた。同志カイン (Kaine) (アメリカCIO) は、アメリカには労働者スポーツ運動は存在せず、その設立には困難があるが、会議で聞いたことには関心があると説明した。

一六 国際会議…初期の国際会議がかなりの関係する国々によって歓迎されることが確認されたので、一九四五年九月に始まる世界労働組合会議に直ちに続く日々に、そのような会議をパリで開催すること、そしてフランスFSGTにその会議を組織するよう求めることが一九四五年五月三〇日に合意された。

さらに、招待状は各国の労働者スポーツ運動に送られること、またその時までに労働者スポーツ運動を再建していない国々はその国の労働組合組織を通じて招待されることが合意された。さらに、USSRとアメリカ合衆国は世界労働組合会議で接触が確立された代表を通じて招待されることが合意された。

一七 戦争中のスポーツ活動…確認できるかぎり、戦争中に労働者スポーツ組織を維持してきたのは以下の国々だけである。

一八 イギリス…イギリス労働者スポーツ協会は限られた規模でその活動を続けてきた。イベントを組織することの困難さは、軍隊にいる男女の不在、産業に残る男女の長時間労働およびスポーツ設備が製造されないことも関係があった。しかしながら、組織は維持され、陸上競技(クロスカントリーとロードウォーキング)、ボウリング、チェス、サイクリング、ダーツ、そして最近まではローンテニスを含むスポーツ・イベントが組織された。トラック競技、フットボール、卓球および水泳は戦争中は延期された。

組織された特に愉快的イベントが、イギリスに一時的に移住している大陸の労働者スポーツマンの代表との国際チェスマッチであった。

関心の復活は大戦の終結以降すでに明らかであり、より大きなイギリス労働者スポーツ組織へと導くことで、国際イベントへの参加者が増加することが期待される計画が作られている。

一九 パレスチナ・「ハポエル」(パレスチナのユダヤ人労働者のスポーツ組織)は委員会との一定の接触を維持していた。それは、クロスカントリー、バスケットボール、バレーボール、トラック・アンド・フィールド競技、水泳、体操、フットボール、レスリング、ボクシング、卓球および海上スポーツ(ボート、ヨット、航海、トレイニングおよびナビゲーション)を含む多くの種々な活動をおこなった。

ハポエルはパレスチナでは、そしておそらく中東全体でも、その会員の数においても活動の領域においても最大のスポーツ組織である。それはユダヤ人労働者総連合に加盟しており、スポーツの振興、インストラクターの訓練およびスポーツ・フィールドと体操ホールの建設のために多額の補助を受けている。協会はパレスチナのすべての町、村および居留地に支部をもっている。戦争は困難を、とりわけ人員の損失をもたらしただけけれども、活動は過去六年間にほとんど途切れなく続いている。

二〇 スイス・SATUSは依然として戦前のままであった。会員数が不動であった。成功したスポーツ大会が定期に開催され、週刊紙『Statusスポーツ』は発行され続けている。戦争中のコミュニケーションの難しさがより詳細な情報を得にくくしていた。

二一 フィンランド・委員会は戦争中この国との接触を維持することができなかったが、後に、TULが困難ではあっても限られた規模で機能し続けていたことを知らされた。

二二 財政・委員会は満足のいく財政的基盤のうえで働いた。国際労働組合連盟が一五〇ポンド(三年間に毎年五〇ポンド)を寄付し、より少額の寄付金がイギリス労働者スポーツ協会と「ハポエル」からもたらされた。ささやかな補助金を委員会と関係の

ある労働組合その他の国内グループから受け取った。委員会が機能していた時期の収入総額は一七八ポンド一シリング九ペンスであった。

二三 同時期の支出は合計四二ポンド一二シリング一〇ペンスであった。唯一の費用は印刷費、郵便料金および会議費であった。事務ないし一般の管理費はなく、これらは関係する個人および組織によって自発的に賄われた。

二四 一三五ポンド八シリング一ペンスの収支差額はパリ会議の費用に用立てられるだろう。

二五 結論・準備委員会はこの報告書を提出することを誇りに思う。欠点のあることは自覚しているが、委員会の活動は、この暗い六年間国際労働者スポーツの精神をただ生かしておいただけであったにしても、十分に価値あるものであったと思う。委員会は、委員会の設立にイニシアティブを取ってくれたことに対してイギリス労働者スポーツ協会に、そして大変気前の良い財政的その他の援助、並びに多くの我々の同志との接触を保つことのできる資金を、同志スケヴェネルスを通じて提供してくれたことに対して国際労働組合連盟に感謝を表明する。

二六 委員会は、パリ会議がその先行者より大きくて活動的なわが社会主義労働者スポーツ・インタナショナルの再建に導き、万国の労働者階級のために健康的なスポーツやレクリエーションを振興し奨励するだろうと信ずる。

準備委員会を代表して署名。

ハーバート・H・エルヴィン（議長）

ジョージ・H・エルヴィンとR・シュトルフ（共同書記）

一九四五年九月五日

付録I

国際労働者スポーツ運動の未来

一 準備委員会が戦争中に維持することのできた接触とその後再開された接触から、国内的にも国際的にも労働者階級の間には、スポーツやレクリエーションの継続的な組織化に向けての全般的な願望があることは明らかである。それ故我々の見解としては、このことが自動的に、国内センターにおける活動を奨励し刺激するために、そして国際イベントを主催するために、わが社会主義労働者スポーツ・インタナショナルを再建することを要請する。

二 しかし、変化する状況に遅れないようにするのであれば、労働者スポーツ運動の構成も一定の変更をおこなわねばならないだろう。例えば、あらゆる努力がUSSRとアメリカ合衆国の参加を得るためになされるべきである。さらに、ノルウェーのような国々では変化する状況に当然注意が払われねばならない。ノルウェーでは、当分の間労働者とブルジョアのスポーツ組織に分離されずに、共同のスポーツ戦線がファシズムに対する戦いにおいてすべてのセクトの違いを取り払う必要から生まれている。我々はまた、ほとんどの国の労働者スポーツ運動とイギリスやパレスチナのそれとの関係において、常に起こりそうな困難を避ける努力がなされるべきであると考える。イギリスやパレスチナでは労働者とブルジョアのスポーツ組織に階級分裂はなかった。イギリスとパレスチナでは、一般的なスポーツ統括団体が、その組織の不可欠な部分として、労働組合と社会主義者のスポーツマンの要求を満たす労働者スポーツ運動を備えていた。

これらの観察を考慮して、我々は以下に提案する。

三 国際労働者スポーツ組織が再建されること。

四 善意の労働者階級組織であることを執行委員会に納得させるすべての国内センターに会員資格が開かれること。実情を評価するうえで各々の国の状況が考慮されるだろう。

五 ただ一つの国内スポーツ組織しかない国では、労働組合や労働者スポーツマンからなる会員のセクションを代表して、そのような団体への加盟が開かれること。そのようなセクションは、労働者スポーツ・インタナショナルによって、またその後援で組織されるイベントで競い合う権利があるだろう。

六 復活会議に以下の点を報告するために準備委員会が結成されること。

- (a) インタナショナルの名称
- (b) 上記の (三) (四) (五) の諸点を含み込んだその構成
- (c) 専門委員会の設置と活動範囲
- (d) 事務局の場所
- (e) 会費の比率
- (f) 国際労働者オリンピックアードの早期の組織化

七 準備委員会は五名で構成され、同一の国から二名を出さない。加えて、会長代理と書記代理が置かれること。

八 準備委員会はパリ会議に出席するそれらすべての組織と接触を維持し、新しいインタナショナルの会員となることが望まれる他の組織と接触を確立しようと努めるだろう。

九 準備委員会はできうるかぎり速やかに開催される復活会議のために、あらゆる準備を整えるだろう。

付録Ⅱ

青年へのアピール

我々は、何よりも平和で幸福な人間らしい生活を望むすべての国の青年に向けてこのアピールを送る。それは君たちの若々しい情熱と楽天性を育む。

しかし、それだけでは十分でない。どんなに高い情熱も深い願いも、またどんなに強い信念もそれ自体では我々を我々のゴールへと導くことはできない。成功の保証は、我々がわがスポーツで学んできたように、長い体系的なトレーニングであり、良いスタートであり、最大かつ統制された肉体のすべての身体能力の発揮であり、そしてチームスピリッツへの忠誠と結びついた意志の力である。

こうして我々は、すべての善意ある友人たちとの連帯と協力の精神でもって共通の世界を築くだろう。その身体的、知的および道徳的能力の十分で健全な発達を若い男女に保証する世界を。

今世紀より前、ほとんどの若者にとって労働条件は厳しく単調なものであった。一部の非常に特権ある少数の者だけが教育とレクリエーションの便宜を得ていた。若者たち自身の努力と労働組合や社会主義政党のたゆまぬ努力の結果、状況は改善されていた。しかし、現在もしなければならぬ多くのことがある。

我々は青年に、心身両面での発達のためにあらゆる手段を十分に利用することを望む。我々は青年に、そのような手段を十分に活用しうるより多くの余暇と適当な賃金を得ることを望む。我々は青年に、何の人為的な妨げも受けずに、彼らの祖国だけでなく外国へも旅行する便宜を得ることを望む。我々は青年に、結社の自由と完全な選挙権を得ることを望む。青年が十分に完全な生活を築くためにあらゆる便宜を得るのであれば、人類の進歩のためにもっとも可能性ある貢献をなすことができるだろう。

好機が訪れるたびに、君たちの固い意思を宣言し、青年がもはや搾取の世界の犠牲とはならないことを、青年がもはや失業で身体的にも道徳的にも腐敗しないことを、青年がもはや貧困の災難やそのぞつとするような結果に苦しまないことを、そして青年が

もはや凶器をもって青年同士で戦わないことを決意しよう。

我々は、もし科学と技術的進歩が人類のために奉仕させられるのであれば、もし共通の利益が利己主義に勝るのであれば、もし国際的な経済協力が公共の福祉のために奉仕させられるのであれば、わが地球がきわめて豊かになることを知っている。その時、我々は自由で価値ある人生を生きることができるだろう。

偉大で困難な仕事！ 崇高なゴール！

そのために備えよう！ 君たちの体を鍛え、君たちの知識を広げ、そして君たち自身を祖国の立派な伝統と人類の最良の文化的伝統の価値ある代表者としよう。他人に対する道徳的な力のもつとも信頼できる効果的な源であるような自制心を働かせよう。

君たちの国際協力の原則を堅く守ろう。容易に新たな戦争を引き起こす民族的憎悪の回路にその信念から君たちを引き込まないように、浅薄な愛国主義と放漫な民族主義の魅力あるスローガンを許さないようにしよう。

ファシズムやナチズムが成長したその根を断ち切るよう我々を助けてほしい。類似した毒のある植物が生育するための種子が蒔かれることを許さないようにしよう。ファシズムやナチズムの破滅は世界にとって、そして何よりも若者にとって最大の好機である。社会主義社会における平和で幸福な人間らしい生活に基礎をおく、人間らしい協力の新世界を築く好機である。